

# リオン（6823）26/3期第3四半期決算レポート

半導体スーパーサイクルを背景とした  
「隠れたチャンピオン」の割安感是正へ

評価：ポジティブ（継続）

予想PER 11.0倍

（対 プライム電気機器平均 22.6倍）

## 投資ハイライト

- 業績動向：26/3期第3四半期累計は売上高で過去最高を更新。通期でも連続最高益の更新が濃厚。
- 成長ドライバー：生成AI・データセンター投資に伴う先端半導体工場の新設ラッシュが、同社の高収益製品「液中微粒子計」の需要を牽引。
- バリュエーション：過去最高益を更新中にも関わらず、PERは11倍台とプライム電気機器平均（約22倍）と比較し著しい割安水準に放置されている。
- 株主還元：配当性向30%以上・累進配当の導入により、増配基調が鮮明。

	25/3期 実績	26/3期 会社予想	26/3期 アナリスト予想 (ポジティブ)
売上高	27,877	28,900	29,400
営業利益	4,033	4,400	4,800
当期純利益	2,859	3,150	3,400
EPS (円)	232.19	255.54	275.00





# 26/3期第3四半期決算詳細：累計で過去最高収益を維持。 Q3の足踏みは「出荷タイミング」による一時的的要因。

## 売上高

# 205.5億円

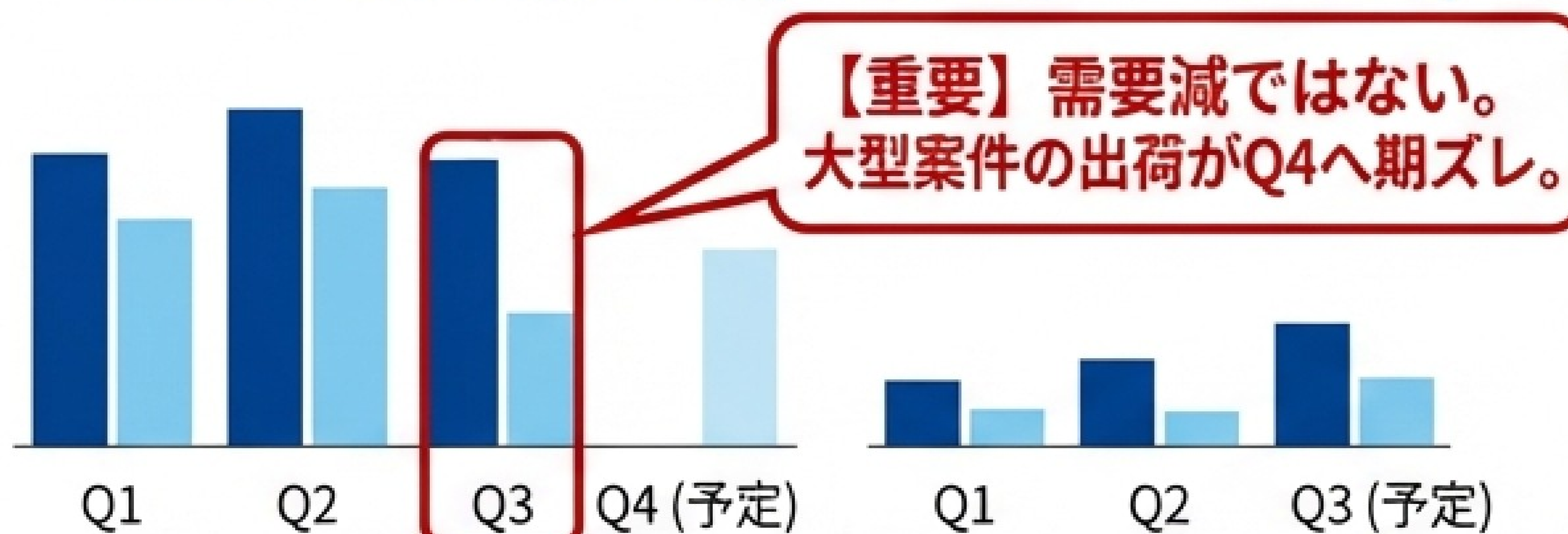
(+0.3% 前年同期比) - 過去最高

## 営業利益

# 30.6億円

(-0.1% 前年同期比) - ほぼ横ばい

### 微粒子計測器事業 (Particle Counters)



売上高 -5.0%。半導体製造工場新設に伴う大口案件の出荷が第4四半期以降に後ろ倒し。生成AI向け需要は依然高い。

### 医療機器事業 (Medical)

利益マージンが改善向上

売上高 +0.9%。物価高による個人消費低迷を、新製品「リオネットプラス」の投入効果でカバー。

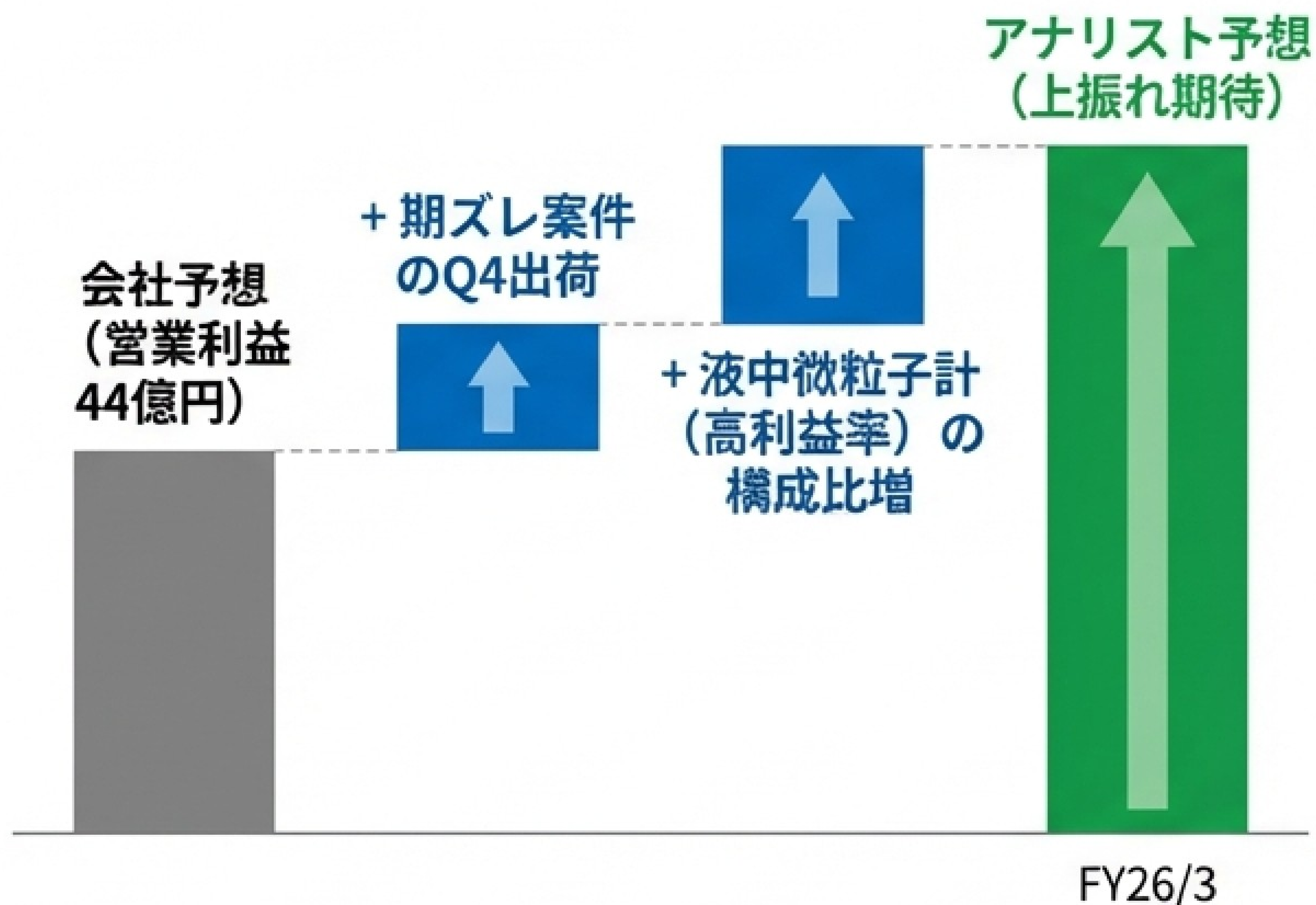
### 環境機器事業 (Environmental)

売上高 +9.3%。インフラ関連や地震計の更新需要が堅調。

Takeaway: ファンダメンタルズは毀損しておらず、受注残は潤沢。通期達成への懸念は不要

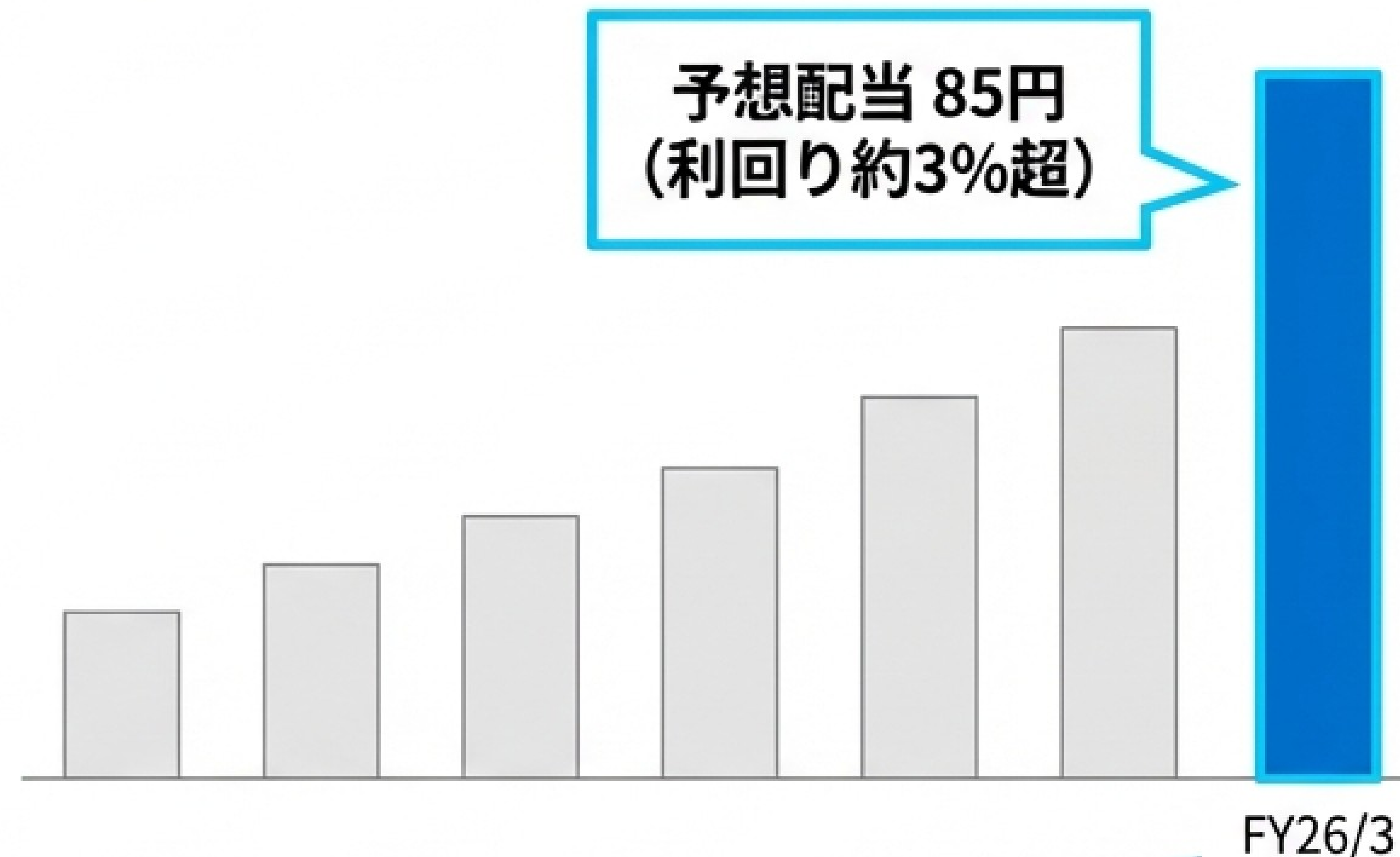
# 26/3期通期見通しと還元：会社予想は保守的。 高収益な液中微粒子計のQ4集中で上振れ達成の確度高し。

## 見通し上振れロジック（ブリッジチャート）



過去の傾向として、会社計画は保守的に  
設定されることが多い。

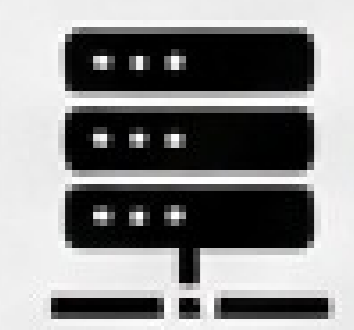
## 株主還元



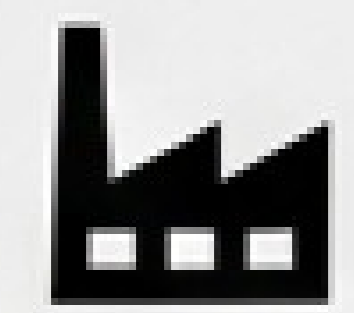
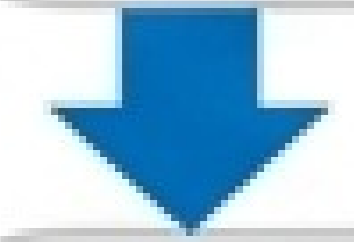
方針：配当性向30%以上 + 累進配当（減配しない）

背景：最高益更新に加え、資本効率向上  
(ROE 10%目標) への意識変革。

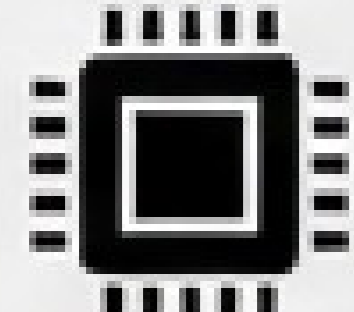
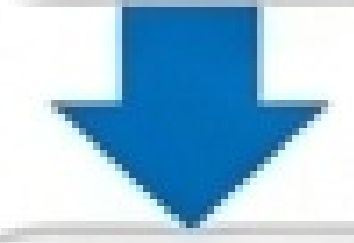
# 27/3期以降の成長戦略：AI半導体の微細化競争が「微粒子計測」の市場規模を構造的に拡大させる。



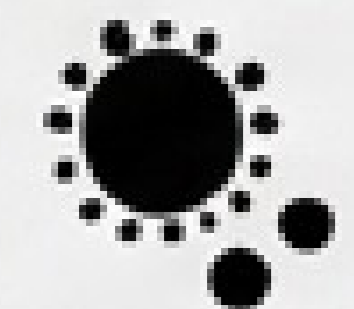
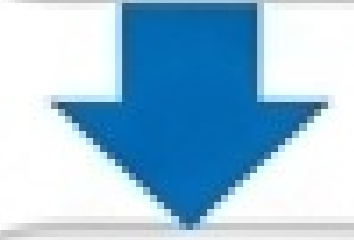
AI・データセンター需要の爆発



半導体ファブの増設・新設



回路線幅の微細化 (Node Shrink)



微小粒子の致命的欠陥化 = 歩留まり管理の厳格化



Rion製 高感度パーティクルカウンタの必須化

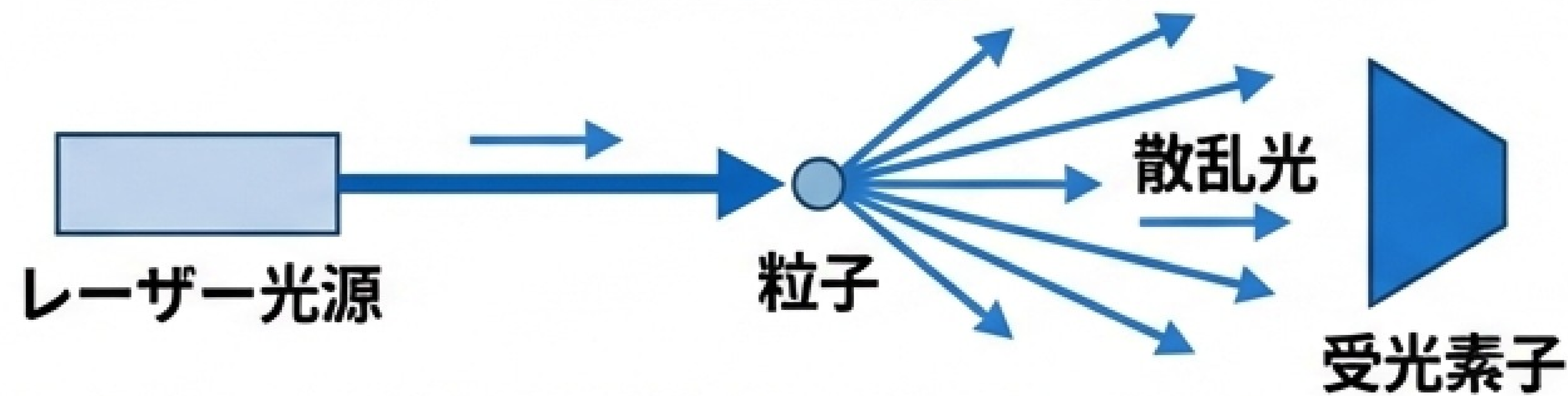


**中期経営計画の進捗:** 27/3期目標（売上高294億円、営業利益44億円）は、半導体関連の好調により前倒し達成が視野。

**戦略投資:** 生産能力増強、次世代微細化対応R&Dへの積極投資。

# 技術解説①：微粒子計測器（パーティクルカウンタ）とは？ 産業の「品質」を守るゲートキーパー。

光散乱方式の原理



リオンのコア技術：ごくわずかな散乱光から粒子の「大きさ」「数」を正確に検知。



## 気中 (Airborne)

クリーンルーム内の  
空気清浄度を管理。

## 液中 (Liquid) - GROWTH DRIVER



半導体製造の命運を握る。  
「純水」や「薬液」中の  
不純物を管理。

## 技術解説②：リオンの「Moat（経済的な堀）」。 なぜ薬液計測分野で世界トップシェアなのか。

純水 (Pure Water)

米国PMS社  
(Particle Measuring Systems)

デファクトスタンダード。  
競争激化エリア (Red Ocean)。

薬液 (Chemicals)

リオン  
(Rion)

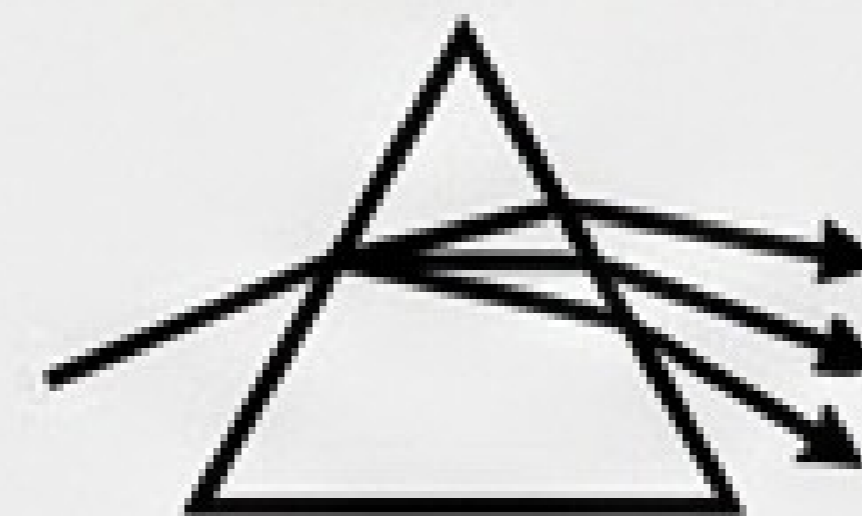
圧倒的グローバルニッチトップ  
(Blue Ocean)。

1. 特殊薬液への耐性  
(Resistance)



サファイア流路セルを採用。  
フッ酸(HF)などガラスを溶かす  
強酸に対応。

2. 屈折率補正  
(Refractive Index)



薬液ごとに異なる光の屈折率を  
補正する独自アルゴリズム。

3. 気泡キャンセル  
(Bubble Rejection)



配管内の微細な「気泡」を  
「粒子」と誤認しない判別技術。

# 盤石な収益基盤：医療・環境機器事業が創出する安定キャッシュフロー。

## 医療機器事業 (Medical)



- 国内トップシェア。
- 高齢化社会を背景に底堅い需要。
- 高付加価値製品「リオネットプラス」が単価上昇を牽引。

## 環境機器事業 (Environmental)



- インフラ監視、製品開発、災害対策。
- 能登半島地震以降、防災・国土強靱化政策により地震計の更新需要が増加。

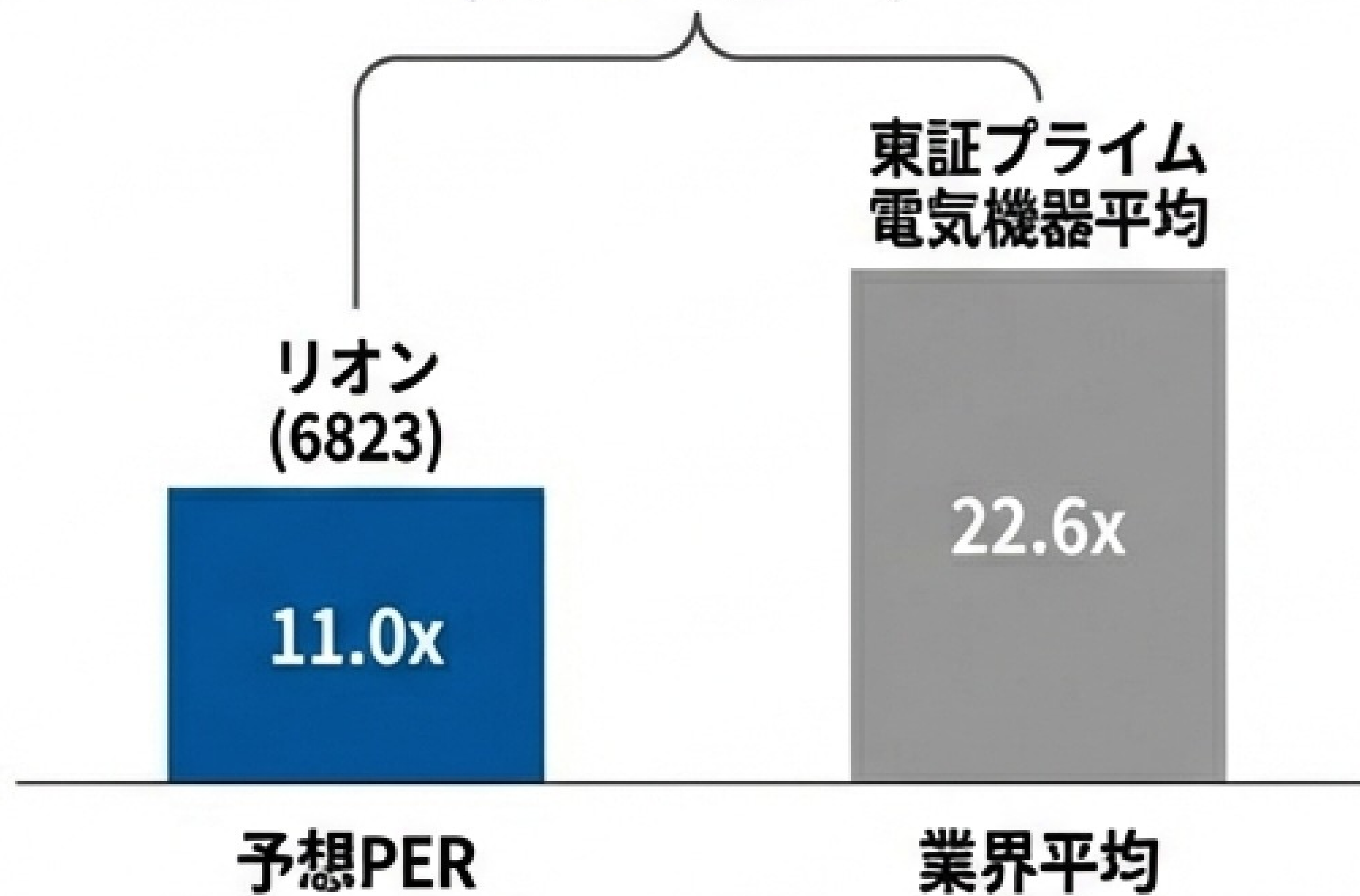
これら事業の安定収益が、成長する半導体事業への投資原資となる。

R&D Investment

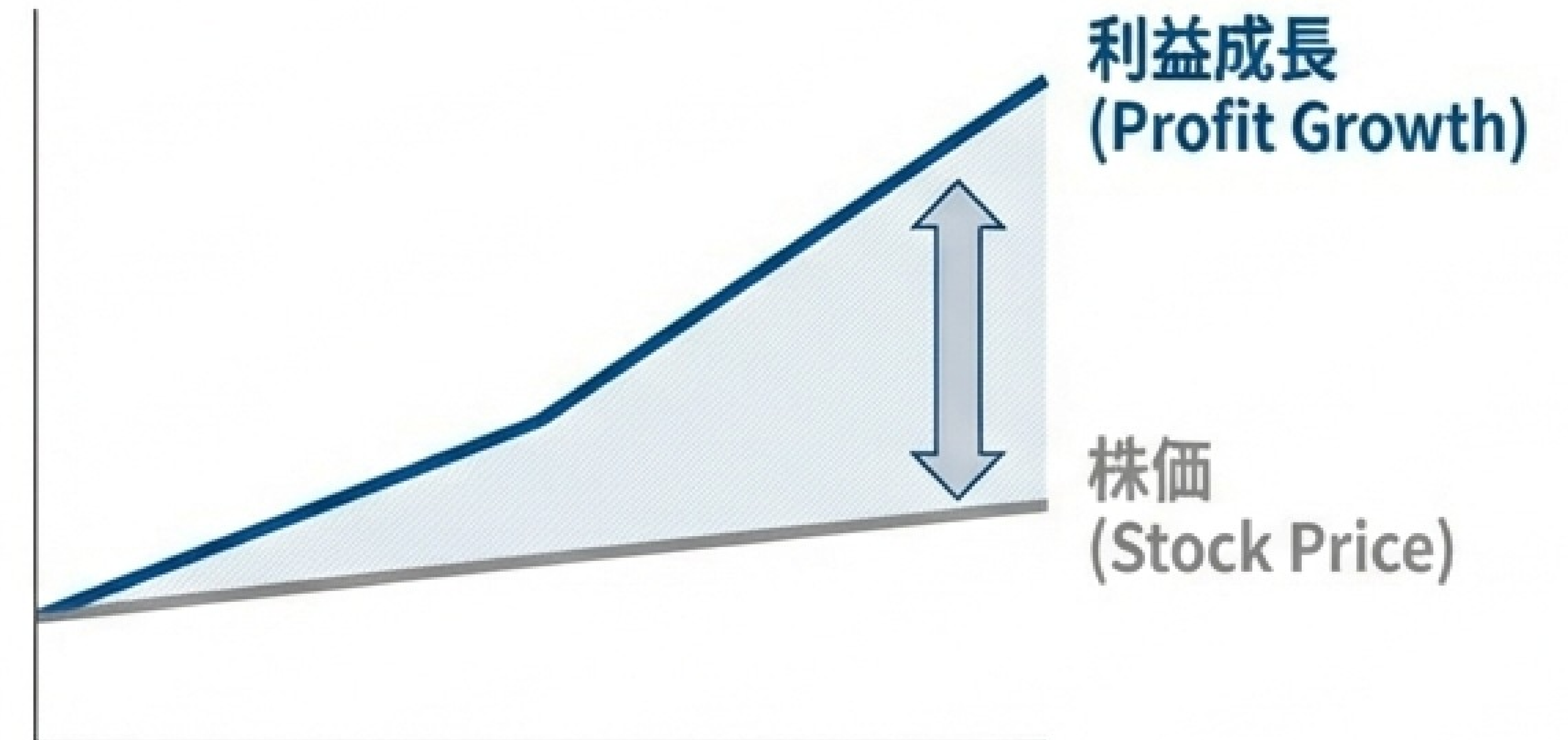


# バリュエーション評価：市場の評価不足は明らか。 最高益企業がPER 11倍台に留まる矛盾。

## Significant Undervaluation (著しい割安感)



## Price vs. Value (株価 vs. 価値)



- **認識ギャップ:** 市場は「成熟メーカー」として評価しているが、実態は「高成長AI半導体関連」。
- **結論:** ポジティブ継続。テクニカル（最高益）とファンダメンタル（割安）の両面で買い推奨。